

【目次】

1. アーカイブ No.25

連載「日本労働会館物語」第 22 回 2011.01.21 発行の第 24 号に掲載
＜社会主義研究会前史一片山潜デビュー＞

2. 1/09(木) 団体見学・UA ゼンセン埼玉県支部・ヤングリーブス委員会 10 名

3. 1/23(木)～24(金) 出張講演・UA ゼンセン新潟県支部「2025 年新春セミナー」
110 名

4. 1/25(土) 団体見学・UA ゼンセン・NCCU ニチイ分会・新任役員実務研修会
39 名

5. 1/31(土) 大阪民社協会 2025 新春の集い 研修会 50 名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.25

連載「日本労働会館物語」第 22 回 2011.01.21 発行の第 243 号に掲載
＜社会主義研究会前史一片山潜デビュー＞

惟一館(後の日本労働会館、現在の友愛会館)を拠点に、ユニテリアンやそのゆかりの人々により興された社会運動の一つに無産政党運動、社会主義運動があります。その代表例が「日本最初の社会主義政党」とされる 1901(明治 34)年の社会民主党(安部磯雄ら)の結成です。

しかし、社会民主党は結党後、すぐに解散を命じられ、無産政党としての活動足跡を残しておりません。その意味で社会民主党の前身、社会主義協会、さらにその前駆である社会主義研究会の方が、日本社会主義運動史に特筆されるべきものと言えましょう。その意味で本「日本労働会館物語」ではしばらくの間、社会主義研究会、社会主義協会について連載いたします。

ところで社会主義研究会について記述する前に、この頃、社会主義運動がユニテリアン教会機関誌『六合雑誌』でどのように紹介されていたのか確認してみます。前回連載でユニテリアン協会機関誌『宗教』は、1898(明治 31)年 3 月に東京基督教青年会機関誌『六合雑誌』と合併し、新たにユニテリアン協会発行の新『六合雑誌』(第 207 号)となったことを紹介いたしました。そしてこの新旧『六合雑誌』が、「社会主義啓蒙誌」と呼ばれたことは前述した通りです。

では『六合雑誌』に発表された社会主義、社会運動関連の記事・論文にはど

のようなものがあるのか、1893(明治29)年から1898(明治31年)頃までの期間で眺めてみましょう。

当時、社会主義、社会運動関連の記事・論文を執筆している主なメンバーは安部磯雄、片山潜、河上清、村井知至らで、後に社会主義研究会・社会主義協会で活躍することになる人たちです。目立つのは片山潜(1859～1933)の論文の多さです。



片山潜(写真は片山潜記念館パンフより)は岡山県久米南町に生まれ、1880年に岡山師範学校を中退し、上京。その後、アメリカに渡り、苦学して学位を修めています。1896(明治29)年に帰国後、神田三崎町にキリスト教社会事業の拠点としてキングスレー館を設立したクリスチャンです。

片山の論文が『六合雑誌』に掲載されるようになるのは、帰国後まもなくの同年5月に発行された第185号からで、旧『六合雑誌』時代です。ここで片山は「米国に於ける社会学の進歩」を寄せ、同188号には「社会学の綱領」が掲載されます。

片山の連載論文「独逸社会共和国の創立者フェルジナンド・ラサル(其一)」が掲載されるのは同192号(明治29年12月)で、以下、第194号に「同(其二)」が、第195号に「同(其三)」が掲載されます。また、第196号に「フェルジナンド・ラサルの社会主義」が、第197号に「フェルジナンド・ラサルの社会主義(承前)」が、そして第198号(明治30年6月)に「フェルジナンド・ラサルの社会主義(完結)」が寄稿されます。

この頃、片山は高野房太郎らと労働組合期成会を結成(明治30年7月)し、機関誌『労働世界』を発刊します。そのためでしょうか、同月刊行の『六合雑誌』第199号に「労働団結の必要」を、同200号には「日本に於ける労働問題」を寄稿。さらに同201号に「国家社会主義の創唱者ロドベルトス」を、同202号に「独逸に於ける社会共和国の発展」を、同203号に「ロドベルトスの社会経済主義」を執筆し、この頃の『六合雑誌』は片山論文のオンパレードです。

「文章が読みにくい、分かりにくい」と批判される片山ですが、労働運動家・社会主義運動家としてのデビューは鮮やかです。この後、『六合雑誌』第205号・第213号(明治31年1月・9月)に「欧州国民的生活の発達に於ける都府の地位」、「欧米諸国の市長を論じて東京市に及ぶ」を寄稿。そして第220号(明治32年4月)の「社会主義研究会記事(第5回)」として片山潜の「フェルジナンド・ラサルの社会主義」が掲載されます。(文責・間宮悠紀雄)

2. 1/09(木) 団体見学・UA ゼンセン埼玉県支部・ヤングリーブス委員会 8 名

UA ゼンセン埼玉県支部・ヤングリーブス委員会の 8 名が来館・見学。「日本労働運動の 100 年余」をダイジェスト版で受講、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 40 分受講した。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。受講後は、展示室の見学をした。皆さんとっても熱心に受講しました。

3. 1/23(木) 出張講演・UA ゼンセン新潟県支部「2025 年新春セミナー」79 名

1 月 23 日、UA ゼンセン新潟県支部が開催した 2025 年新春セミナーに参加し、講演を行った。テーマは「労働組合が政治・選挙活動に取り組む理由と勝利するためにやらねばならぬ事」。1912 年(大正元年)に友愛会設立以降、常に政治と向き合い、労働組合の政策実現のために各級の政治活動に取り組んだ歴史的な経過。日本社会主義運動から民主的労働運動への流れ、併せて選挙活動の現実と勝利のためのポイントを講演した。友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを強調した。

4. 1/25(土) 団体見学・UA ゼンセン・NCCU ニチイ分会・新任役員実務研修会 37 名

友愛労働歴史館の生い立ちとこの地の重要性。歴史館の展示物の概略を説明した。「日本労働運動 100 年余」を期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を 40 分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。各自歴史の重みと政治と労働組合の関係性に感心した様子でした。

5. 1/31(土) 出張講演・大阪民社協会 2025 新春の集い 研修会 50 名

歴史は未来を見る鏡であるとして、常設展示の「日本労働運動の 100 年余」に加えて、友愛会や社会主義運動など友愛会の運動の詳細から民主的労働運動、現代につながる運動の流れを講演。

期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余を説く。

特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」など盛り沢山。鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。皆さんとっても熱心に受講し、その後のパーティーにて質問もあり、好評の様子でした。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairodrekishikan@rodokaikan.org

HP <http://www.yuairodrekishikan.com>

惟一館から 130 年、友愛会から 112 年